

ー低線量ＣＴによる肺がん検診を希望されるかたへー

当院では、原則として 50 歳以上の方を肺がんＣＴ検診の対象とさせていただいています。下記（検診の目的等）についてご確認のうえお申し込みください。

40 歳未満の方につきましては、放射線被ばくによるデメリットを考慮し当該検診の対象外とさせていただいております。

40～49才の方は、喫煙歴や家族歴などの理由でとくにご希望される場合に、下記についてデメリットをご確認のうえ、お申し込みください。

■ 検診の目的

低線量ＣＴ肺がん検診の目的は、早い時点で肺がんを発見することです。

■ これまで明らかになっている成績

低線量ＣＴ肺がん検診では、胸部Ｘ線検査による検診と比較して、より小さな早期の肺がんを発見できることはわかっていますが、治療成績への有効性については現在世界で研究が行われているところです。

■ 検診の方法

検査台に両腕を挙げた状態で仰向けになり、大きく息を吸って 15-20 秒のあいだ息を止めていただいている間に断層撮影します。検査前の食事制限等は特にありません。造影剤も使用しません。

■ 検診の判定について（検診で「精密検査が必要」とされた場合でも、結果的に肺がんではない場合があります）

ＣＴでは非常に小さな変化も確認できますので、喫煙歴のあるかたの 3～6 割でなんらかの変化がみつかります。しかし、そのうち 9 割以上は肺がんではありません。肺がんかどうかははっきりさせるためには、精密検査や経過観察として定期的にＣＴ検査を受けることとなります。このことから、精密検査を受けられるかたの負担を最小限にするため、検診の判定を「精密検査が必要」とす

る際の「陰影(肺の変化)」の大きさは学会で基準が定められています。基準以下の大きさの陰影のほとんどはがんではなく、精密検査を行うことがむしろ受診者に害を及ぼすことになるからです。当院においても学会基準に則って判定しますのでご了承ください。

■ 肺がん以外の病気が見つかった場合

「肺がん疑い」以外の病気がみつかった場合、急いで検査を進めないと生命に関わるような病気以外は「精密検査が必要」とはしないことが学会で定められています。当院でも学会基準に則って判定しますのでご了承ください。

■ 検診に期待される効果

肺がんであった場合、より早期に発見できる可能性があります。これにより、肺がんが治癒する、延命できる、より負担の少ない治療が受けられる、という可能性があります。

■ 検診の限界

1回の検診で異常なしと判定されても「今後、肺がんにならない」ということではありません。進行の早いがんは、次の検診までの間に自覚症状が出現し発見されることもあり得ます。また、喫煙歴のある方に発生しやすい「中心型肺がん」はX線やCT検査では発見しにくく、喀痰細胞診検査を併せて受けたほうが良いとされています。また淡い陰影や正常組織と重なっていて見えにくい陰影などは発見できない場合があります。検診で「異常なし」と判定されても、体調がすぐれないと感じた際には医療機関を受診しましょう。

■ 精密検査を要する場合

「精密検査が必要」と判断された場合には、低線量ではなく通常のCT検査を定期的に行う場合があります。低線量CTの放射線被ばく量は胸部X線撮影の10倍程度ですが、通常のCTは低線量CTのさらに10倍の放射線被ばく量があります。被ばく量について詳細を知りたい方はお申し込み時におたずねください。